

## 「気象業務はいま 2015」の刊行について

「気象業務はいま」は、広く国民の皆様にも、気象庁の取組の全体像をご理解いただくことを目的として、気象記念日（6月1日）にあわせて毎年刊行しています。今年の「気象業務はいま 2015」の主な内容は次の通りです。構成については別紙をご覧ください。

- ・ 特集1「集中豪雨の実態と最新監視技術の動向」では、昨年の「平成 26 年 8 月豪雨」の気象状況やその発生要因を解説し、集中豪雨をもたらす積乱雲の監視に関する研究、災害から身を守るための情報の活用方法を紹介しています。
- ・ 特集2「火山観測と火山防災の強化」では、昨年 9 月 27 日に発生した御嶽山の噴火の概要と気象庁の対応、火山噴火予知連絡会の評価・報告についてとりまとめました。また、火山防災対策の推進のため地元の関係機関で構成される火山防災協議会の取組や、気象庁が開始した新しい降灰予報についても紹介しています。
- ・ トピックスでは、新しい静止気象衛星ひまわり 8 号による機能強化をはじめ、竜巻等の突風や地球温暖化の現状、長野県北部の地震など気象庁による分析、防災気象情報を気象災害の軽減に活用いただくための取組などを紹介しています。
- ・ 第1部「気象業務の現状と今後」では、防災情報をはじめとする各種情報について解説するとともに、気象・海洋や地震・火山などの監視・予測、技術開発といった取り組みを紹介しています。
- ・ 第2部「最近の気象・地震・火山・地球環境の状況」では、最近の気象災害や地震、火山活動、異常気象などを紹介しています。

「気象業務はいま 2015」は、6月1日以降、全国の書店及び政府刊行物センターから注文販売で取り扱います。また、気象庁ホームページの「気象庁関連の刊行物・レポート」ページにも掲載します。

( <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html> )

本件に関する問い合わせ先：総務部企画課 電話 03-3212-8341（内線 2261）

「気象業務はいま 2015」の構成

特集1 集中豪雨の実態と最新監視技術の動向 ～豪雨災害から身を守るため～

- (1) 平成26年8月豪雨
- (2) 8月の不順な天候の要因
- (3) 8月19日から20日にかけての広島県の大雨と土砂災害
- (4) 広島県での集中豪雨の発生要因の解明
- (5) 最新の技術による積乱雲の監視
- (6) 気象災害から身を守るための情報の活用(気象庁ホームページの紹介)

特集2 火山観測と火山防災の強化

- (1) 御嶽山の噴火災害を踏まえた気象庁の課題と対応
- (2) 火山噴火に伴う被害軽減に資する降灰予報の高度化

トピックス

- 1 観測機能を大幅に強化した静止気象衛星「ひまわり8号」
- 2 台風第11号に伴う竜巻等の突風について
- 3 地球温暖化の現状
- 4 特別警報の運用開始から1年を過ぎて
- 5 大雪に対する取り組み
- 6 防災気象情報を避難に活用する取り組み
- 7 第3回国連防災世界会議への対応
- 8 緊急地震速報に新手法の導入を決定
- 9 長野県北部の地震について
- 10 東南アジアに対する気象レーダー分野の技術支援
- 11 気象情報の産業利用促進のためのワークショップを開催

第1部 気象業務の現状と今後

第1章 国民の安全・安心を支える気象情報

- 1 気象の監視・予測
- 2 地震・津波と火山に関する情報
- 3 地球環境に関する情報
- 4 航空の安全などのための情報
- 5 民間の気象事業
- 6 地域の防災力向上への取り組み

第2章 気象業務を高度化するための研究・技術開発

第3章 気象業務の国際協力と世界への貢献

第2部 最近の気象・地震・火山・地球環境の状況

参考資料 全国気象官署等一覧、用語集、索引